

令和8年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立鹿骨東小学校

校長名 鈴木 衣里

名称: ほねっこタイム

学校の教育目標	・思いやりのある子 ・健康で明るい子 ・よく考え工夫する子(重点目標) ・ねばり強くやりぬく子
---------	---

国が示す総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

学校の総合的な学習の時間の目標

- 児童の興味関心に基づく課題及び地域や日本の文化、伝統、国際理解、環境、福祉等の課題について体験的な活動を重視した学習活動を実施する。
- 進んで自国の文化及び諸外国の文化を理解し、学ぼうとする態度を育てるためにゲストティーチャーを活用し、国際理解教育を推進する。
- 地域に愛着を持ち、意欲的に活動するために親水緑道や篠崎公園の環境を生かし、米作り・しめ縄作り・小松菜栽培等地元産業の教材化を図る。
- 情報を適切に活用し、課題を解決する力を育てるために、学校図書館やコンピューターの積極的な活用を進める。
- 江戸川や日本、地球規模での環境やごみリサイクルについて考え、環境保全に取り組む。

育てようとする資質や能力及び態度

〈学習方法に関すること〉	
第3・4学年	第5・6学年
・各教科で培った力を複合的に用いて調べ学習を進めたり、発表したりしようとする。 ・課題解決のために必要な情報、資料を集める手段を知り、活用しようとする。	・言葉、動作、造形、映像等の表現活動を複合的に用いてより効果的に伝達する手段を工夫したり、相手と自分の関係を考慮して関わり合おうとしたりする。 ・自分で課題を見つけ、情報収集のために学んだ方法を活用して問題解決に取り組む。
〈自分自身に関すること〉	
第3・4学年	第5・6学年
・教師と共に地域の教材に触れたり、体験したりする中で地域への愛着を深める。 ・自分自身の成長を振り返ったり、友達との関係を振り返ったりする中で人との関わり方を学ぶ。	・地域の人と関わり合う中で芽生えた課題、探求したい問題などを明確にし、追求する。 ・ボランティアや異年齢、異文化交流を行う中で、互いを尊重する心を学び、相互に伝え合う手段を考える。
〈他者や社会とのかかわりに関すること〉	
第3・4学年	第5・6学年
・地域の人々や、地域の環境と触れる中で自己の課題や探求したい問題を設定する。 ・自分自身の成長を振り返ったり、友達との関係を振り返ったりする中で人との関わり方を学ぶ。	・地域の人と関わり合う中で芽生えた課題、探求したい問題などを明確にし、追求する。 ・ボランティアや異年齢、異文化交流を行う中で、互いを尊重する心を学び、相互に伝え合う手段を考える。

内容	学習対象	学習事項
第3学年	オリエンテーション みんな聞いてよ、江戸川じまん ・わがまち鹿骨 ・ふるさと学習(組子細工) 「安全マップ」を作ろう ・安全マップ作り ・江戸川区に受け継がれているものを紹介しよう ・昔の道具やくらし調べ	・「総合的な学習の時間」とは何か、知る。 ・鹿骨の町について調べ、自慢できることを新聞にまとめて紹介する。地域の伝統工芸、組子細工に挑戦する。 ・自分の身を守る方法を学び、身近な地域にある危険を調べ、マップにまとめたことを、下級生や地域の人々に伝える。 ・鹿骨の歴史や学校・地域を支える人々やくらし、道具などの今と昔を比べ、くらしの変化をポスターなどにまとめ交流し合う。
第4学年	私たちにできること ・ごみ問題・水問題について学んだことから自分たちにできることを考え、発信しよう 水害から身を守る ・ハザードマップを通して自分たちの地域について知り、避難計画を考えよう 障害者理解 ・手話を通じた、コミュニケーションを考える 東京都の伝統工芸 ・ふるさと学習(江戸扇子)	・江戸川区ハザードマップを見て、自分たちの住んでいる地域が水害に弱いことを知り、自部hんたちにできることや避難先などを考え、発表する。 ・江戸川区の環境問題について考え、リサイクルやごみ処理の現状、水資源について理解を深めるとともに、環境を守るために自分たちにできる取り組みを考える。 ・東京都の伝統工芸、江戸扇子づくりに挑戦する。
第5学年	東小の伝統を受け継ごう ・御神楽交流 ・鼓笛交流 米博士になろう ・稲を育てよう ・稲作に関係する日本の行事 ・米を収穫しよう ・わらを活用しよう ・ふるさと学習(しめ縄作り) ・米を食べよう 新潟不思議発見 ・雪国のくらし ・ウィンタースポーツ ・新潟の気候 SDGsを調べよう ・SDGsとは? ・来年の活動計画を立てよう	・東小の伝統である御神楽や鼓笛の技術と共に、高学年としての責任ある態度や心構えを受け継ぐ。 ・春～秋にかけて通して稲を栽培し、収穫する。稲作に関係する日本の行事や文化などを調べ、資料を集めて新聞などにまとめる。 ・雪国のくらしやウィンタースポーツについて調べ、ウィンタースクールで体験したことなどを新聞にまとめる。 ・SDGs17の目標について知り、その中から選んだ目標について、調べる計画を立てる。
第6学年	東小の伝統を引き継ごう ・御神楽交流 ・鼓笛交流 世界に誇る日本の文化 ・自然 ・日光の自然・歴史 日本の伝統工芸 ふるさと学習(江戸風鈴) 自分探しの旅 ・わたしの成長 ・感謝の気持ちを伝えよう ・考えよう わたしの未来 自分ごとから始めよう～SDGs～	・東小の伝統である御神楽や鼓笛を引き継ぐ。 ・世界遺産である日光の社寺や豊かな自然について調べ発表したり聞いたりして、学びを深める。 ・卒業を前に、自分の成長と周りの人との関わり方に目を向け、お世話になった人たちに感謝の気持ちを伝える方法を考える。また、自分の長所や特性に気づき、いろいろな職業について調べたり、将来の自分を設計したりして夢や希望をもつ。 ・SDGsの項目について知り、自分達ができることを考え、実践しようとする意識を高める。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動を行う。 ・どの学年においても地域教材の活用、ラインズによる情報教育を盛り込む。 ・探究的な学習に取り組むことで、諸外国の生活や文化などを体験したり、調査したりする。 ・自然体験やボランティア活動などの社会体験や、ものづくりや生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を取り入れる。	・実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、探究できるよう指導する。 ・課題解決に向けて、情報の集め方、整理・分析の仕方、まとめ・表現する方法などを、他教科等で育成を目指す資質・能力と連付けながら指導する。 ・言語能力や情報処理能力など、全ての学習の基盤となる資質・能力を育成する。	・地域人材の活用。 ・ラインズによるパソコン指導、ハロー先生、留学生による国際交流授業等、学校外のゲストティーチャーの開発・活用。 ・地域の産業や伝統文化の教材化(ふるさと学習)と年齢に応じた体験活動時間の確保。 ・環境活動においては主事や地域の施設、人材や保護者との連携を図る。 ・グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態等、相互の教え合い、学び合いの場の設定。	・ポートフォリオを活用した評価の充実。 ・個人内評価の重視。 ・学期末、学年末における指導計画の評価。 ・授業分析による学習指導の評価の重視。 ・指導と評価の一体化の充実。